

人形浄瑠璃

# 文楽

二〇一九年三月地方公演

【主催】文楽協会 【後援】文化庁 【助成】芸術文化振興基金・朝日新聞文化財団



昼の部

義経千本桜

椎の木の段  
すしやの段



夜の部

義経千本桜

道行初音旅

新版歌祭文

野崎村の段



2019年 3月17日(日) 【2回公演】

宇都宮市文化会館小ホール

昼の部……13:00 開場 13:30 開演

夜の部……17:30 開場 18:00 開演

入場料：全席指定 昼の部 2,500円 (消費税込)  
夜の部 2,000円 (消費税込)

11月24日(土)発売開始

プレイガイド 宇都宮市文化会館プレイガイド 028-634-6244

FKDショッピングプラザ宇都宮店(3F) 028-623-5269

FKDショッピングモール宇都宮インターパーク店(2F) 028-657-6534

\*未就学児のご入場はご遠慮下さい。  
\*駐車台数に限りがございますので公共の交通機関をご利用下さい。

主催：公益財団法人うつのみや文化創造財団

お問い合わせ：宇都宮市文化会館 1m.028-636-2121



写真：青木信二



# 二〇一九年三月 地方公演 配役表

## 昼の部

解説 (あらすじを中心に)

豊竹 芳穂 大夫

### 義経千本桜

#### 椎の木の間

(人形役割)

|       |          |           |         |
|-------|----------|-----------|---------|
| 口     | 竹本 南都 大夫 | 権太 伴善 大夫  | 吉田 義 悠  |
|       | 鶴澤 燕二 郎  | 権太 女房 小仙  | 桐竹 紋 吉  |
| 典     | 豊竹 咲 大夫  | 主馬 小金吾 武里 | 吉田 玉 勢  |
|       | 鶴澤 燕三 郎  | 六代 君      | 吉田 玉 彦  |
| すしやの間 |          | 若葉の内侍     | 桐竹 紋 臣  |
| 前     | 竹本 津駒 大夫 | いがみの権太    | 吉田 玉 男  |
|       | 竹澤 宗助    | 娘 お里      | 吉田 義二 郎 |
| 後     | 竹本 織 大夫  | 弥左衛門女房    | 桐竹 勘 壽  |
|       | 鶴澤 清志 郎  | 平弥 助 盛    | 吉田 和 生  |
|       |          | すしや 弥左衛門  | 吉田 玉 志  |
|       |          | 梶原平三景時    | 吉田 清五 郎 |
|       |          | すし 買      | 大 ぜ い   |
|       |          | 重村の役人     | 大 ぜ い   |
|       |          | 重兵        | 大 ぜ い   |

曙月太明蔵社中

## 夜の部

解説 (あらすじを中心に)

竹本 小住 大夫

### 義経千本桜

#### 道行初音旅

(人形役割)

|     |          |       |         |
|-----|----------|-------|---------|
| 静御前 | 豊竹 芳穂 大夫 | 静 御 前 | 吉田 文 昇  |
| 狐忠信 | 豊竹 靖 大夫  | 狐 忠 信 | 吉田 清五 郎 |
| ツレ  | 竹本 碩 大夫  |       |         |
|     | 鶴澤 清 道   |       |         |
|     | 鶴澤 寛 太郎  |       |         |
|     | 野澤 錦 吾   |       |         |
|     | 鶴澤 燕二 郎  |       |         |

### 新版歌祭文

#### 野崎村の段

(人形役割)

|    |          |        |         |
|----|----------|--------|---------|
| 中  | 竹本 碩 大夫  | 娘 おみつ  | 豊松 清十 郎 |
|    | 豊澤 富 助   | 手代 小助  | 桐竹 紋 臣  |
| 前  | 竹本 小住 大夫 | 丁稚 久松  | 吉田 玉 佳  |
|    | 野澤 勝 平   | 親 久作   | 吉田 玉 也  |
| 後  | 豊竹 靖 大夫  | 下女 およし | 吉田 玉 延  |
|    | 野澤 錦 糸   | 娘 お染   | 吉田 一 輔  |
| ツレ | 鶴澤 寛 太郎  | 駕籠 屋   | 吉田 玉 路  |
|    |          | 駕籠 屋   | 吉田 和 馬  |
|    |          | 母 お勝   | 桐竹 勘 壽  |
|    |          | 船 頭    | 吉田 玉 誉  |

曙月太明蔵社中

### 義経千本桜

#### 椎の木の間・すしやの間

源義経によって平家は滅亡。しかし平重盛の嫡子維盛は生きていて高野山に入つたとの噂。都の近くに身を潜めていた維盛の妻若葉の内侍と若君を連れ、主馬小金吾武里が高野へと向かいますが途中、吉野の下市村で親からも勘当された悪者いがみの権太に金をゆすり取られた上、追手にあい、討死。

実は維盛は、かつて重盛に恩を受けた弥左衛門、つまり権太の父の店で、奉公人の弥助として匿われていました。事情を知らない妹お里は、父が熊野浦から連れて来た弥助に首つだけ、今夜の祝言が楽しみでなりません。けれども、内侍が宿を求めて訪れ、真実が明らかに。一生連れ添うつもりでいた夫を失つたお里の慟哭…。

そこへ、弥助の正体を見抜いた源頼朝の家臣梶原景時が。妹の逃がした維盛夫婦を追い、戻つて来た権太が差し出したのは、縄をかけた内侍と若君、そして、維盛の首。手柄をほめ、梶原が去るや、怒つて権太を刺す父。が、内侍、若君と見えたのは、権太の妻子、首は、弥左衛門が偶然遺体を見つけ、維盛の身代わりにとひそかに持ち帰っていた小金吾の首！。権太は、たまたま弥助の正体を知つて心を改め、愛しい妻子を身代わりにして、維盛一家を助けたのです。

ところが、昔、重盛に命を救われた頼朝の本心は、維盛を助け、出家させることだつたと判明。妻子を犠牲にする必要などなかつた…。権太は、今の死に様も悪の報いだと悟り、これまでの悪事を悔いて絶命。維盛は髪を切り、家族と別れ、高野へ。

人形浄瑠璃の全盛期、延享四年(1747)、竹本座初演。竹田出雲二代、三好松洛、並木千柳による五段続きの時代物で、「菅原伝授手習鑑」「仮名手本忠臣蔵」とともに浄瑠璃三大傑作に数えられています。

昼の部でご覧いただくのは、全篇の山場となる三段目。「平家物語」に見られる維盛の物語―源平の合戦の最中、戦場を離れ、都に残した妻子を恋慕いつつ高野で出家し、那智の沖で入水―を踏まえ、「すしや」では、現在も奈良県吉野郡下市町で営業されている「つるべすし弥助」を舞台としています。

### 義経千本桜

#### 道行初音旅

大和の源九郎狐の言い伝えを取り入れた四段目の華麗な道行。道行の最高傑作といわれ、聞きどころ、見どころ、たつぷりです。

平家を滅ぼしたのち謀反を疑われ頼朝に追われる義経は、吉野山に潜伏。それを知つた愛妾静御前が、義経の家来佐藤忠信を供とし、吉野をめざして大和路を旅します。満開の桜の中、義経を思つて静が打つ鼓「初音」は、大昔、雨乞いのために雌雄の狐の車で作られ、義経が法皇から賜わり、静に形見として与えたもの。実はこの忠信は鼓の子、つまり狐…。狐独特の表現や早替わりもお楽しみください。

### 新版歌祭文

#### 野崎村の段

大店の娘お染と丁稚久松の、許されない主従の恋。しかも、お染には結婚が決まり、久松には、養ひ親久作の妻の連れ子、おみつという許婚がいました。この恋の行く末を心配し、また孝行なおみつの幸せを願う久作は、店で失敗した久松が実家に戻されたのを幸い、おみつと祝言をあげさせることに。待ちに待った祝言が突然決まり、おみつは大喜び。ところが、久松を造つてお染が…。

あくまでも恋を貫こうとするお染。その強い思いに打たれ、一度は恋を諦めた久松も、一緒になれなければ死ぬとの意を再び固めます。久作は、違ならぬ恋を思い切るよう説得。涙ながらに別れを約束する二人。しかし、おみつは、心中の覚悟を見抜き、二人を添わせるため、自身の幸せを諦めて尼に…。

安永九年(1780)、竹本座初演。お染・久松の心中(1710)を題材とし、新たな悲恋を盛り込んだ、近松半二の上下二巻の世話物で、上の巻の「野崎村」は文楽の代表的な演目のひとつ。お染の美しいタドキや、お染と久松が船と駕籠とに別れて野崎村(大阪府大東市)から大坂へと去つて行く段切の、華やかで躍動的な三味線は、大変有名です。

◎本表裏記がございませぬ。原によつては本表裏記にくい場合がございませぬので、あらわらうございませぬ。◎出演者の高身長や脚やむを博ない事情により、代役もしくは演目を変更して上演する場合がございませぬ。◎開演中の写真撮影・録音録音ならびに携帯電話・スマートフォン等の使用は固くお断りいたしませぬ。